

## 新カリキュラム

### 【看護師に求められる実践能力】ルーブリック

	DP1: 援助的関係形成 (I群)	DP2:暮らしを営む人の理解 (I群)	DP3: 思考力 (II・III群)	DP4: 探求心 (V群)	DP5: つながる力 (IV群)
構成要素	実施する看護についての説明責任、倫理的な看護実践、援助的関係の形成	対象の理解	アセスメント、計画、実施、評価 健康の保持・増進、疾病の予防 急速に健康状態が変化する対象への看護 慢性的な変化にある対象への看護 終末期にある対象への看護	継続的な学習、 看護の質の改善に向けた活動	看護専門職の役割と責務、安全なケア環境の確保、保健・医療・福祉チームにおける多職種との協働、地域包括ケアシステムにおける看護の役割
入学時	<ul style="list-style-type: none"> <li>人を思いやる気持ちをもち、誠実に対応できる</li> <li>マナーやルールを守り、責任ある行動がとれる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人に関心がもてる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護に関心があり、ものごとをありのままに受け止めることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぼうと行動できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを伝えることができ、チームワークの大切さを理解している</li> </ul>
1年終了時	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者の表情や思い・願いを理解できる。</li> <li>看護専門職に必要な倫理的行動をとろうと努力している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間の身体的・精神的・社会的側面の特徴を理解し、暮らしと健康の関係が説明できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象の特性から論理的思考を用いて必要な日常生活援助を判断し、基礎看護技術の基本動作に基づき実践できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護の学び方を理解し、学習する習慣が身につく。</li> <li>目指す看護師像をイメージできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者(クラスメイト・上級生・職員)との連携を大切にし、自己の役割を果たせるよう行動できる。</li> <li>暮らしに関心を持ち、多様な看護の場を説明できる。</li> </ul>
2年終了時	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象に共感的理解を示し、自己決定を促す方法が理解できる。</li> <li>対象との関わりの中で自己を振り返ろうと努力している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康状態が暮らしに与える影響を理解し、対象を身体的・精神的・社会的側面から捉えようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象の苦痛とニーズよりアセスメントし、優先度を判断して、根拠ある看護実践をしようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験したことを糧に自己の看護観を表現できる。</li> <li>自己の課題に気づき、主体的・計画的に取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>暮らしの場における看護の役割が説明できる。</li> <li>多職種との協働や連携の実際を知り、看護の役割を説明できる。</li> </ul>
卒業時	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象の願いや思いを尊重し、援助的関係を形成できる</li> <li>倫理的な看護実践ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象を生活者として捉え、身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆる発達段階、健康レベル、生活の場をもつ対象についてアセスメントし、根拠のある看護を実践できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門職業人としての自覚と責任をもち、常に学び続ける</li> <li>自己の課題に気づき、解決に向けた努力ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護職の役割を理解した上で、対象者を含むチームメンバーと連携し、情報を発信できる</li> </ul>

※「DP」：ディプロマポリシー（卒業認定）